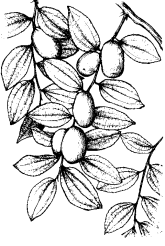


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
たー8	たいそう 大棗	甘・微温 脾・胃・心・肝	3~9g、煎服。
中医生薬解説			
 <p>ナツメの果実</p> <p>補脾和胃 脾胃虚弱の倦怠無力、食欲不振、泥状便などに、人参・白朮・茯苓・生姜などと用いる「六君子湯」。</p> <p>養宮安神 営血不足による心神不安の不眠、不安感、悲しい、じっとしていられない、驚きやすいなどの症候に、竜眼肉・当帰・酸棗仁・小麦・炙甘草などと用いる「甘麦大棗湯」「苓桂甘棗湯」。</p> <p>緩和薬性 薬力が猛烈な薬物に配合し、性質を緩和にするとともに脾胃の損傷を防止し、また味を矯正する「葶藶大棗瀉肺湯」「十棗湯」。</p>			
<p>参考 大棗は生姜と配合することが多く、 生姜は大棗によって刺激性が緩和され、大棗は生姜によって気壅致脹の弊害がなくなり、食欲を増加し消化を助け、他薬の吸収を促進する。 解表薬に配合すると、生姜が衛気を助けて発汗し、大棗が営血を益して発汗による傷労を防止し、営衛を調和することができる。 補益薬に配合すると、生姜が和胃調中し、大棗が補脾和胃し、滋補の効能を強めることができる。</p> <p>使用上の注意 使用上の注意 助湿生熱し中満を引き起こすので、湿盛の脘腹脹満、食積、虫積、痰熱咳嗽などには禁忌である。</p>			
中医以外の生薬解説			
神農本草経		味甘平、心腹邪氣を主どり、中を安んじ脾を養ひ十二經を助け胃氣を平にし、九竅を通じ少氣少津液身中の不足大驚四肢重を補ひ、百薬を和し、久服すれば身を軽くし年を延ぶ。	
薬 徴		攣引強急を治す。	
新古方薬囊		攣引とはひきつり引かるる事なり、強急とはこわばりつまるなり、則ち 大棗 に緩和の効あるものと見ゆ、又 大棗 には血の循るを良くするの働きあり。	